

『新編・ロスト・タブレット 2019』

2. ボリーバル革命の今 -ボリーバルの嘆きは尽きない

2019年3月

『革命の結果に奉仕しようとするのは、海を耕しているようなものだ…』

シモン・ボリーバル(1783~1830)南アメリカ「解放者」

「オラ！マリア、コモ・エスタ・トゥ？この間からお願いしてた件だけど、今だいじょうぶ？ 僕の本[ロスト・タブレット]のフォロワーからいろんな質問や突っ込みが溜まっててね、その回答を手伝ってもらいたいんだ」

「オーラ・ラ！シオにそんな熱心なフォロワーがいるなんてね、それはミラグロ(奇跡)ね！きっとみんな素敵な女性たちなんじゃないかな？」

勝呂は「うむ、まあね」と満更でもなさそうな様子。

「さっそくだけど最初のテーマはシモン・ボリーバルと渦中のベネズエラのことだよ。通り一遍だけどボリーバルのプロフィールは書き出しておいたのだからね。まずは19世紀の『南米の解放者』ボリーバルがなぜ今なのかという質問が来ているんだ。これはきっと今のベネズエラの国名がベネズエラ・ボリーバル共和国になったことと関係しているんだって？」

「その通りよ、シオ、1999年にベネズエラの大統領に就任したウーゴ・チャベスはシモン・ボリーバルの理念を基に民族・人道・社会主義を取り込みながらラテンアメリカ諸国の結集・連帯を図るというボリーバル主義運動を広め、米国抜きで[21世紀の社会主義]を目指したわけなの(第五共和国運動からベネズエラ社会主義統一党へ)。そしてボリーバル憲法を發布し、国名もベネズエラ・ボリーバル共和国に改名したの。だから[ボリーバル革命]と言われているわ。反米路線をひっさげ、改革にひた走って行ったのよね」



Public Domain

あつ！キャッチ・ホンが入ったようだ。マリアのことだ、きっと長くなりそうなのでそのすきにシモン・ボリーバルのプロフィールを見てみよう。

シモン・ボリーバル(Simón Bolívar)【1783年~1830年】ラテンアメリカ独立の父。南米アンデス諸国をスペインから独立に導きグラン・コロンビア共和国(ベネズエラ、コロンビア、エクアドル、パナマ)を創設し初代大統領となる。革命家、軍人、政治家、思想家。ベネズエラ・カラカス

の名家の生まれ。ラテンアメリカの解放と統一に生涯を捧げるも、ラテンアメリカ統合の夢は道半ばで破れたが、後世の汎アメリカ主義に繋がった。ラテンアメリカの「解放者」(El Libertador)とも呼ばれる。

ラテンアメリカ文学の代表的作家でノーベル文学賞を受賞したガブリエル・ガルシア・マルケスの歴史小説『迷宮の将軍』にはボリーバル最期の日々が描かれている。

◎ B-wink 本編「ロスト・タブレット」332 ページ 『迷宮の将軍』

マリアの電話がまだ終わらないようだからベネズエラの略歴をまとめてみよう。

ベネズエラの略歴：

1498 年	コロンブス来航、スペインによる南米大陸の植民地化が始まる
1811 年	スペインから独立
1819 年	グラン・コロンビア共和国成立(ヌエバ・グラナダとベネズエラ連合)
1830 年	同国からベネズエラ、エクアドルが分離独立
1920 年代	オリノコ油田発見
1980～90 年代	石油産業が経済発展を牽引、石油利権・汚職蔓延、貧富格差拡大、カラカス暴動、石油依存レンティア国家へ
1999 年～	ウーゴ・チャベス大統領就任：ボリーバル革命「21 世紀の社会主義」標榜、新憲法発効し国名をベネズエラ・ボリーバル共和国に改名、貧困層優遇、ポピュリズム路線、主要産業の国有化、外資離れ、価格統制、原油価格激落、インフレ
2013 年	チャベス大統領死去、ニコラス・マドゥーロ大統領就任：価格統制、生活必需品不足、ハイパーインフレ、石油価格下落、治安・経済情勢悪化、国民不満
2017 年	マドゥーロ大統領制憲議会が発足、人権侵害、独裁化、米国が経済制裁を発動
2018 年	大統領選挙で全国選挙評議会(CNE)がマドゥーロの再選を発表、2期目を宣誓。経済崩壊、危機的状況、避難民国外脱出、米国の追加制裁
2019 年	二人の大統領：先の大統領選挙が公正に実施されなかったとしてグアイドー国会議長が暫定大統領(ベネズエラ憲法規定)就任宣言 ベネズエラ危機：マドゥーロの武力行使で人道支援物資受け入れ阻止、コロンビアと断交、米国の追加制裁、米国は軍事介入をほのめかしている。

「ケ・ペーナ (ごめん) シオ！弟のアロンソからの電話だったの。あすプエルト・リコからボゴタに来るんだって。どこまで話したっけ？ ああそうそう、コロンビアとベネズエラがどうして犬猿の仲なのかだったわね。そうなのよ、ずっと良くないのよ。それを象徴するのが Tienditas 国際橋という [開けずの橋] があるわ。両国の国境をまたぐ 5 つ目の橋として 2016 年に工事は終わったのに、その前年ころからの関係悪化でせっか

く完成したのに開通式も挙げられずずっと閉められたままなのよ。このあいだの写真見たでしょ。2月23日の支援物資の引き渡しの時も結局開けられることはなかったわ」

◎ E-wink 前章1「国境橋の位置」参照 国境

がさがさと音がする。マリアはしきりに何かを探している様子。

今のうちにコロンビアとベネズエラの関係を見てみよう。

両国の関係が悪化しはじめたのは2004年ころからである。チャベス大統領がFARC(コロンビア革命軍)へ巨額な資金援助をしていることが発覚したのだ。

その後も親米のコロンビアと反米社会主義の急先鋒であるベネズエラの対決関係はずっと続き、とくにFARCがらみが災いしてアルバロ・ウリベ大統領のあとのサントス大統領になっても関係改善は見られず、米州機構の仲介も功を奏せず(アンデス危機)、2009年8月、あろうことかコロンビアが米国と軍事同盟を結んだことが両国をさらに対立関係にしてしまった。サントス大統領のFARCとの和平プロセスとELN(民族解放軍)との和平交渉を引き継いだ中道右派のドゥーケ大統領になってもマドゥーロ大統領と折り合いが付きそうにない。マドゥーロを支持しているのは今のところキューバ、エクアドル、ニカラグア、エル・サルバドル、ボリビアなどの国々だが今後対米接近する国が出てきそうだ。

「ケ・ペーナ、シオ！ たった今アロンソから聞いた情報だけど、メモにしたんだけど見つからないのよ。島の名前、なんと言ったかしらね。首都カラカスからおよそ200キロメートル沖合にほとんど使われていない無人島みたいな小さな島なんだけど。そのベネズエラ領の島がロシアの軍事基地になりそうだとアロンソが言っていたのよ」

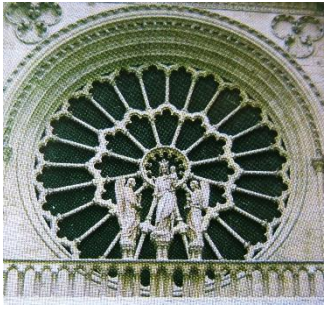
「えっ！ そうなるとカリブ海の波高しになるじゃないか、ほんとかねえ」「ええ、だから米国が黙っておれないのよ。このほかに中国の巨額の石油借款があるわね」「えっ、石油借款だって？ あまり聞きなれない言葉だね」「これはね、中国がお得意の戦略開発パートナーという触れ込みで巨額の開発投資をしていて、その返済を石油でやらせるというものなのよ。ベネズエラの借金は膨らむばかりで、すべてが次の政権にのしかかるわけだわ」

「おいおい、マリア待ってよ。米国はいつもの『裏庭』扱いだけではなく経済封鎖で追い打ちをかけ、ロシアは経済援助の見返りに軍事施設の建設を目論み、そして中国の巨大資本の浸食。低質といっても世界最大の埋蔵量を誇るベネズエラ。みんなこの石油権益に群がっているんだね。これじゃベネズエラは大国の餌食じゃないか！」

勝呂もヘレス(シェリー酒)を取り出した。キンキンに冷やしてある。

「ところで、アロンソは元気そうだね、セニョーラ・カロリーナも相変わらず飛び回っているようだね。アロンソはプエルト・リコでは何を？ いつもの聖堂の仕事？」

「そのようね、弟によるとプエルト・リコから米軍がベネズエラ向けUSAIDの支援物資



をかなり前から国境の都市ククタへ空輸していたそうよ。ああ、それとアロンソからシオにお土産があると言ってたわ。メールですぐ送るわね」

その時だった。スカイプの画面がいつものパリ・ノートルダムバラ窓の聖母マリアから要塞の映像に代った。

それはシオ(勝呂)が永年集めていた要塞と監視塔の貴重な写真だった。それは今まで勝呂のコレクションに無かったベネズエラに現存する要塞だった。首都カラカスからほんの100キロメートル西方、トゥリステ湾に面した港湾都市プエルト・カベージョにある Fortín Solano と Fortín de San Felipe の要塞だ。そして勝呂にとってさらに嬉しいことに、その要塞はなんとボリーバルが若かりし頃その要塞の守りについていたと言うのだ。そのためか San Felipe は Castillo Libertador (ボリーバル要塞)の別名で呼ばれている。こうして勝呂の要塞・監視塔のコレクションがさらに充実することに。アロンソとマリアに感謝。



Fortín Solano 1766



CC BY-SA 4.0



Fortín San Felipe /Castillo Libertador 1732-1741



Marilyn Torres CC BY-SA 3.0

[E-wink \(55\)](#) 付録：ロスト・タブレット/要塞・監視塔写真集参照

なお勝呂の要塞コレクションにあるベネズエラの Castillo de Araya にはあのイタリア

の要塞技師バウティスタ・アントネリがフェリーペⅡ世の命により 1604 年と 1622 年の二度訪れて防衛の強化を図っている。

「シオ、国境の橋の話に戻るけれど気が付いてた？もう一度ミラ・マパ！地図を見て、23 日衝突のあったのがシモン・ボリーバル橋でしょ、その他にホセ・アントニオ・パエス橋にフランシスコ・デ・パウラ・サンタンデル橋、シオにはあまり馴染みがないかもしれないけれど、みんな 19 世紀ボリーバル時代に独立に寄与した英雄たちよ」

「そうか国境の橋の名前にするなんてコロンビア、ベネズエラ両国にとってよほど敬愛のこもった名前なんだね」「そうなのよ。シオは南米が永いから知ってるようにサッカーの試合と言えばクラブ・チーム対抗の(コパ・リベルタドーレス・デ・アメリカ、通称コパ・アメリカ)という南米大陸選手権試合があるでしょ。今年は日本も参戦できるのよ。このリベルタドーレスというのが[解放者たち]という意味で、複数形だからシモン・ボリーバルとホセ・デ・サン・マルティン(アルゼンチン出身の英雄)の二人に敬意を表した名称になっているわ、でも広義に考えればアントニオ・パエスやサンタンデルとといった当時の英雄たちも含まれると思うわ」

ここでマリアは突然口調を変えた。

「シオ、ボリーバルの考え方を知るには、やはり彼が残した箴言を味わってみるのが一番のような気がするので送っておくわね。スエルテ！（頑張ってるね）」**箴言**

「シオ、それから折角だからシオのフォロアーの皆さんにもっと「あるあるばなし」をしましょうね」

スカイプの画面がまた元の聖母マリアに戻った。モーツァルトのピアノ曲が聞こえてきた。協奏曲 26 番『戴冠式』のようだ。そういえば(これを聴けば気がアマデウス流に湧き出ずるのよ)とマリアが言っていたことがある。

「シオのフォロアーって、もしも日本人だったらあまりピンとこないかもしれない陸続きの国境のはなしよ。トランプは国境の南、メキシコとの境界に壁を作ろうと躍起になっているけれど、国境がはっきりと仕切られている所ってそう多くはないし、検問だつてないところばかりよ。

[◎ E-wink YouTube “South of the Border” Frank Sinatra 1956](#) (良き時代の国境)

だから国境沿いの町ではその時々でガソリンの安い方で入れるのが当たり前だし、シオも経験してると思うけれどアルゼンチンとブラジルの国境では大昔カラーテレビの普及時にアルゼンチンからブラジルに買い出しの列が連なった時期もあったでしょう。サベ・ケ、シオ。今コロンビアで起きていることよ。私と私のパートナーである弁護士のエンリケ・ラミレスのところにはベネズエラ人がひっきりなしにビザの相談で押し寄せているのよ」

二人は法律事務所でビザ手続き代行をしている。

「そうか、相変わらず忙しいんだね。いまは依頼人の多くはベネズエラか。それについてもビザというのは人の人生を左右する大事なものなんだね」「そうなのよ、それだけに怖い仕事なのよ」グラスが触れる音がした。きっとヘレスを飲んでいるにちがいない。聞いてみた。案の定だった。

「ベネズエラの問題は他国が干渉すべきではないという論調もあるようだけどそのあたりを一番食っているのがコロンビアだわ。主権の尊重といっても政権が対話に応ずるのを待っていたら犠牲になるのは国民なのよ」

「サベ・ケ、マリア、昨年あたりから日本の旅行社が本腰をいれてコロンビア・ツアーのプランを続々出しているんだよ。もうボゴタやメデジンやカルタヘーナでも日本人ツアー客の団体が見られるんじゃないかな。ただし、どこかの国のような爆買いはしないけれどね」

「爆買いって?」「compra sin limite (限度なき買い物)みんなが喜ぶ大量買いのことだよ」「シオ、ちょっと何を言ってるか分からない」「そうかこれはあるあるではなく(ないないばなし) だったか、ペルドナメ(ごめん)」「じゃあまたね。シオのフォロアーによろしくね。チャオ、バイ」

箴言 “ボリーバルの言葉”

- ◇ 「私は人民に選ばれた指導者よりも、指導者を選んだ人民の方に千倍もの信頼を置いている」
- ◇ 「私は自由と栄光のために闘ってきた。しかし、個人的栄達のために闘ったことはなかった」
- ◇ 「自由と栄光のために働く者は、自由と栄光以外のいかなる報酬も手にすべきではない」
- ◇ 「常に圧政に対して、横領に対して、そして痛ましく、無益な戦争に抗するのは気高い」
- ◇ 「徳性を備えた政府のない社会は道を失う。時として、政府を形成するのは原則ではなく人間である」
- ◇ 「エネルギーのない所に功績は光らない。強さのない所に徳はなく、勇気のない所に栄光はない」
- ◇ 「イスパノアメリカには独裁か無政府状態しかないのではないだろうか」(終わらない地域主義と内戦を思っ)
- ◇ 「アメリカ合衆国は自由の名においてアメリカ大陸を災難だらけにしようとしているように思える」(パナマ議会[スペイン語版、英語版]の際に感じた合衆国への不信感により)
- ◇ 「革命の結果に奉仕しようとするのは、海を耕しているようなものだ」
- ◇ 「私の最後の願いは祖国の幸福にある」(死の1週間前に残した遺言)
- ◇ 「一体どうやったらこの迷宮から抜け出せるんだ！」(臨終に際して)

2. ボリーバル革命の今:了(3月8日)